

先週の説教要旨

『神の山に登れ』井上隆晶牧師
出エジプト記 33 章 13 節、18～25 節、
34 章 1～5 節

❶【神が共にいることに固執したモーセ】モーセが神の山に登り十戒をもらっているとき、山の麓ではイスラエルの民は自分たちを救ってくれた神を裏切り、金の子牛の偶像を造っていました。神は怒り、もうこの民と共にには行かないと言われます。「わたしはあなたの間にあって上ることはしない。途中であなたを滅ぼしてしまうことがないためである。あなたはかたくなな民である。」(出エジプト 33 : 3) 近くにいたら民の不信仰の姿を見て怒り、滅ぼしてしまうかもしれない、だから一緒には行かないというのです。これと同じような言葉をイエス様も言われたことがあります。イエス様が山から降りてきて、弟子たちが悪霊に憑かれた子供を癒せなかったことを知ったとき「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまで私はあなたがたと共にいられようか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。」(マタイ 17 : 17) と言われました。イエス様も弟子たちの不信仰を我慢しているのです。神様って不信仰な人間の間に住むことに耐えられないのです。神が喜ばれるのは信仰です。(ヘブライ 11 : 6) 信仰を持たずに神に近づくことは自殺行為です。モーセはこれを聞いて、主が御心を変えて、イスラエルの民と共に進まれることを執拗に願いました。「もし、あなた御自身が行ってくださらないのなら、わたしたちをここから上らせないでください。一体何によって、わたしとあなたの民に御好意を示してくださることが分かるでしょうか。あなたがわたしたちと共に行ってくださることによ

てではありませんか。そうすれば、わたしとあなたの民は、地上のすべての民と異なる特別なものとなるでしょう。」(出エジプト 33 : 15～16) 神が共にいてくださるからこそ、私たちは特別な者となるのです。神が共にいなければ私たちは何の役にも立ちません。

❷【民と共に歩まれるキリストという岩】モーセは「神が共にいてくださることが神の御好意だ」と言いました。実に祝福とは、神が人と共にいて下さることなのです。エジプトに奴隷として売られたヨセフは、無実の罪を着せられ牢屋に入れられましたが、主が彼と共におられたので守られ、知恵が与えられ、問題を解決することができました。「主がヨセフと共におられた」(創世記 39 : 2、3、21、23) という言葉が実に四回も繰り返されています。

モーセの願いを聞き入れた神は、共に上ることを約束されました。そこでモーセは「あなたの栄光をお示ください」

(33 : 18) と頼みます。栄光とは神の現われですから、姿を見せてくださいということ。すると神は「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。見よ、一つの場所がわたしの傍らにある。あなたはその岩のそばに立ちなさい。わが栄光が通り過ぎるとき、わたしはあなたをその岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、わたしの手であなたを覆う。わたしが手を離すとき、あなたはわたしの後ろを見るが、わたしの顔は見えない。」(出エジプト 33 : 20～23) と言われます。人は神を見ることはできませんが、神の傍らにある一つの場所、それは岩ですが、その岩に隠れて神を見ることができるといなのです。後姿を見るとは、神のなさった業は見えるという事でしょう。「この岩こそキリストだったのです。」(I コリント 10 : 4) とパウロは言っています。↑

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

E メールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆 晶

2025年8月10日 No.1832



《最後の審判》

都島教会の 2025 年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。」(詩編 127 : 1)

2025 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。